

「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」の大会準備状況

1 大会の概要

『第10回大会でアジア初開催』

- (1) 開催期間 2021年5月14日(金)～30日(日)「17日間」
開会式5月14日(金) 京都市内
閉会式5月30日(日) 大阪市内
- (2) 開催競技 公式競技32競技55種目（ほかオープン競技も実施）
- (3) 開催場所 関西広域連合圏域（12府県政令市）
- (4) 開催目標 参加者5万人
（国内3万人、国外2万人：150か国・地域以上）
- (5) 主催 （一財）関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会
- (6) 共催 （公財）日本体育協会
- (7) 後援 スポーツ庁、（公財）日本障がい者スポーツ協会

2 競技運営について

全ての大会参加者が満足を得られるよう、円滑な競技運営に向けた万全の準備を整える。

(1) 公式競技

<現状>

- ・中央競技団体説明会（2017年9月実施）
- ・国際マスターズゲームズ協会（IMGA）視察及び協議（2017年6月、10月実施）
- ・競技別実施要項概要の意向調査・調整（2017年10月実施）

2016年10月に決定した公式競技（32競技55種目）の円滑な実施に向けて、府県政令市実行委員会とともに各競技種目の実施要項作成作業を進めるとともに、各種規定の整備を図る。

併せて、年齢、性別、能力や障がいの有無等に関係なく誰もが参加できるインクルーシブな考え方を取り入れた大会を目指して、例えば、障がいの者の競技参加に配慮した競技開催の協議・調整を行うなど準備を進めている。

<今後の予定>

- ・競技別実施要項概要（※）の作成（2018年3月）
※競技日程案及び障がいの者の参加競技・種目の設定
- ・テクニカルデリゲート（競技責任者）の選出（2018年度）
- ・競技用具整備計画の作成（2018～2019年度）
- ・競技別実施要項の完成（2018年度）及び公表（2019年度上期）
- ・競技役員等編成案の作成（2018～2020年度）
- ・表彰メダルの作成（2019～2020年度）
- ・競技別プログラム等の作成（2020年度）

(2) オープン競技の実施について

大会を盛り上げ、大会の一体感や機運の醸成を図るためオープン競技を実施する。

- ・実施時期 公式競技と同一競技(種目) 2020年4月1日～12月31日
2021年5月31日～8月31日
公式競技以外の競技(種目) 2020年4月1日～2021年8月31日

<種目>

- 第1次申請分： 2017年11月決定 9競技
- 追加募集： 第2次申請分(現在募集中) ～2018年2月末
第3次申請分(2018年12月頃募集予定)

3 大会運営について

(1) 実行委員会の設立

各府県政令市において競技の実施主体となる実行委員会を設立し、組織委員会と連携して開催準備を進めている。

<現状>

12府県政令市のうち10府県政令市で設置済(2017年12月末現在)

<今後の予定>

府県政令市において、開催競技の着実な準備・運営を推進し、地域における開催効果を高めるため、開催地市町(競技)単位での実行委員会を設置するなど推進体制の充実強化を促す。

(2) 交通

関西大会の参加者がストレスなく競技に参加できるよう、広域間交通及び宿泊地・競技会場間等地域交通を円滑に推進するため、交通パスの発行や増便、シャトルバスの運行、マイカー・レンタカー対策などの交通サービスを提供する。

また、競技参加後も観光資源あふれる関西の地を楽しめるような交通の提供と取り組みが関西エリアの観光地としての魅力向上に寄与するようなレガシーを構築する。

<現状>

- ・各競技開催地域の交通機関等の実態調査(2017年10月実施)
- ・交通に関する各府県政令市実行委員会の方針・意向調査(2017年10月実施)

<今後の予定>

- ・交通事業者等で構成する交通検討会議の開催(2018年1月～)
- ・交通基本計画の作成(2018年3月)、交通実施計画の作成(2018年度)
- ・多言語対応ホームページ等による交通情報の提供開始(2019年11月)
- ・大会公式ガイドブックや案内所での交通情報の提供(2021年5月)

(3) 宿泊

IMGAガイドライン、過去大会の宿泊施設の提供方法及び関西大会の広域性を勘案して、参加者の目線に立った安全・安心な宿泊施設を提供する。

<現状>

- ・各競技開催地域の宿泊施設に係る実態調査(2017年10月実施)
- ・宿泊に関する各府県政令市実行委員会の方針・意向調査(2017年10月実施)

- ・宿泊施設実態調査及び府県政令市実行委員会の意向調査結果に基づく課題抽出と対応検討（2017年11月～）

＜今後の予定＞

- ・宿泊予定者数（参加者・同伴者・競技役員等）の推定調査（2018年度）
- ・宿泊計画の策定（2018年度）
- ・多言語対応ホームページ等による競技開催地周辺の宿泊施設情報の提供開始（2019年11月）
- ・ホームページによる宿泊施設の提供開始（エントリーシステムとも連動）（2020年2月）

（4）ボランティア

府県政令市実行委員会と連携して多様なボランティアの確保を図るとともに、必要な知識を習得するため、充実した研修を実施する。

また、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック大会と連携して、これら大規模国際スポーツ大会で培われた運営ノウハウを活用し、ボランティアの運営を図る。

＜現状＞

- ・全国外大連合と通訳ボランティア等に関する協定書締結（2017年11月14日）
- ・ラグビーワールドカップ組織委員会、東京2020組織委員会との3大会連携協定書締結（2017年11月20日）

＜今後の予定＞

- ・ボランティア業務指針の策定（2018年度）
- ・ボランティア動員計画の策定・募集開始（2019年度）

4 広報誘客について

大会参加者5万人（国内：3万人、海外：2万人）の目標達成に向け、12府県政令市実行委員会と組織委員会が連携し、それぞれの役割を担いながら、効率的、効果的な広報誘客活動を行っている。

（1）国内向け広報誘客

リピーター参加者が多い大会の特性を踏まえ、オークランド大会や各種大規模スポーツイベント等を通じて構築したスポーツ愛好家等とのネットワークを拡充させるとともに、類似大会に出場しているスポーツに関心を有する層を、新たな大会参加者に誘導すべく、各地の大型スポーツイベント等の機会活用やスポーツ関連誌等でのPRを行い、大会の周知を図っている。

さらに、国内全般に広く大会の開催を周知することにより、大会認知度を向上させるため、大規模集客が見込まれるエリアで開催される各種イベントにもブース出展や住民向けの行政広報等によるPR活動を展開している。

①マラソン大会等各種イベント等でのPR活動

全国から多数の競技者が集まるスポーツイベントなど様々な機会を活用し、大会周知を図る。

- ・えひめ国体（愛媛県・2017年9月）
- ・日本スポーツマスターズ（兵庫県・2017年9月）
- ・2017関西の魅力発信イベント（東京都・2017年9月）
- ・第1回関西シニアマスターズ大会（徳島県・2017年10月）など21のイベント

- において、ブース出展やステージでのPR等を実施
- ・京都、大阪、神戸の各マラソン大会でのPRブース出展

②ホームページ、SNS等による情報発信（海外も含む）

ア. ホームページ

- ・英語版の内容充実（2017年5月～）
- ・ホームページの全面改修（2018年1月～）
- ※セキュリティ強化、デザイン面一新、多言語対応のため

イ. フェイスブック

- ・オークランド大会参加者への取材記事掲載 11件
- ・各種イベント情報の掲載 95件

③新聞・雑誌等への記事・広告掲載

ア. 記事掲載 171件

- ・ワールドマスターズゲームズ関西に来る（産経新聞2017年6月22～24日3連載）
- ・マスターズ経済効果1,461億円（日経新聞2017年8月18日）
- ・関西国際大会も通訳 21年開催 応援 京都外大など全国外大連
（毎日新聞（京都版）2017年11月16日）
- ・東京五輪・パラと協定締結を報告 大阪でWMG組織委員会
（京都新聞2017年11月22日）：うち総会関連78件
- ・ワールドマスターズゲームズ協賛くじ、来月4日発売キャラバン隊がPR
（毎日新聞2017年12月24日）：メディアキャラバン関連5件
など

イ. 広告掲載 10件

- ・第65回全日本実業団対抗陸上選手権大会公式パンフレット
- ・訪日外国人旅行者向け関西統一交通パス「KANSAI ONE PASS」
- ・京都国際会館デジタルサイネージ
- ・神戸新聞 など

④その他広報媒体（2017年12月28日現在）

ア. チラシ

<配布実績>

- ・日本語版 231,813部
- ・外国語版 49,320部
- ※英、伊、仏、中繁、中簡、韓、マレーシア、露、ベトナム、ポルトガル、独の11言語分

イ. ポスター

<配布実績>

- ・日本語版 10,772部
- ・第2期協賛開始にあわせ、平成30年1月より新デザインのポスターを掲出 10,000部



- ウ. 大会紹介映像の製作及び貸出
 - ・ 2種類製作：1分半バージョン、5分バージョン
 - ・ 今後、海外向け（英語版）を作成

- エ. 開催記念切手の発行（現在要望中）
 - 2020年後半発行予定

(2) 海外向け広報誘客

海外からの2万人誘客については、オセアニア・北米・アジアの地域別、また、ワールドマスターズゲームズ（WMG）過去大会参加者層、WMG以外の海外類似大会参加者層、新規参加者層などターゲットに応じた戦略的な誘客活動に取り組む。

<地域別誘客目標参加者数>

- ・ オセアニア 約 7,000人
- ・ 北米、南米 約 5,000人
- ・ ヨーロッパ、ロシア、ブラジル 約 3,000人
- ・ アジア圏 約 5,000人

①欧米やオセアニアを中心とするマスターズ先進国への広報誘客活動

- ア. ワールドマスターズゲームズ過去大会参加者（リピーター）層
(目標：10,000人)

マスターズ先進地域で、過去大会への参加者が多いエリアであることから、IMGAから新たに情報提供されたメーリングリスト(約2.8万人)を活用し、大会関連情報や関西の文化・観光情報などの発信を通じて、エントリー開始までの間、関西大会への関心のつなぎとめを図っていく。

- ・ ワールドマスターズゲームズ2017オークランド大会
 - ・ ブース出展（2017年4月16日～4月30日：16日間）
ブース来場者数：141,207人
 - ・ 大会パンフレットへの広告掲載

- イ. WMG以外の海外類似大会参加者層（目標：5,000人）

海外の類似大会でのブース出展や大会公式パンフレットへのPR広告掲載など、参加者に直接アプローチする方法で誘客を促進するとともに、類似大会の運営団体や行政機関との連携により、PRの機会をより多く、効率的に実施していく。

また、IMGAから高いPR効果が期待できる各国のスポーツイベントの開催情報が提供されることから、この情報を効果的に活用し、PRを行う。

<類似大会例>

- ・ アジアパシフィックマスターズ（マレーシア・ペナン）
- ・ ヨーロピアンマスターズ（イタリア・トリノ）
- ・ パンアメリカンマスターズゲームズ（ブラジル・リオ）
- ・ パンパシフィックマスターズ（オーストラリア・ゴールドコースト）
- ・ オーストラリアンマスターズゲームズ（オーストラリア）
- ・ ハンツマンワールドシニアゲームズ（アメリカ合衆国）

②アジア向け新規参加者層を開拓する広報誘客活動（目標：5,000人）

- ・組織委員会を構成する12府県政令市の姉妹都市へのスポーツ・文化交流事業の情報発信やSNS等の活用による大会関連情報の発信を通して、ワールドマスターズゲームズのもつ魅力を伝え、誘客を図る。
- ・関西観光本部や自治体国際化協会等の関係機関と連携を図り、旅行博を活用したPR活動や海外事務所を通じたPR活動など、スポーツツーリズムを契機とした訪日モチベーションの促進につながる情報発信を行う。
- ・JETプログラムの参加者組織（AJET）と連携し、SNSなど様々な通信手段やネットワークを活用した情報拡散を図る。
- ・企業の協力を得てアジアに所在する支店等を起点とした誘客活動を展開する。
- ・2018年9月には、アジアパシフィックマスターズゲームズがマレーシアで開催されることから、この機会を活用したPR・誘客活動に取り組む。

<主な活動実績>

- ・アジアパシフィックマスターズ大会ホームページとの相互リンクによるPR（2017年10月～）
- ・関西観光本部の協力によるPR実績
チラシ配布枚数 1,700部
(英語、マレーシア語、中国語(繁体)、独語)
※旅行博、香港ブックフェア ジャパン・パビリオン、台湾大商談会、現地エージェントへのPRなど
- ・自治体国際化協会（クレア）の協力によるPR実績
クレア海外事務所チラシ配布 1,700部（2017年5月）
(ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、北京、シドニー)
日中韓3か国地方政府交流会議チラシ配布 400部（2017年8月）
- ・シンガポールマラソン チラシ配布 約9,000部（2017年12月）

③海外向けのポスター等の新たな取組について

ア. 効果的なデザイン

「日本」で開催されることが強く印象づけられるよう、「JAPAN」の文字や国旗を海外ポスターのデザインに表示する。

イ. 対象エリア別の工夫

平成30年1月末に2種類（欧米・オセアニア向け／アジア向け）発行

<欧米・オセアニア向け>

WMG文化が浸透している土壌であるため、スポーツ以外の訪日コンテンツもからめるなど、リピーター層や既存の類似大会の参加経験者を取りこぼすことなく、大会だけでなく、歴史・文化等、関西の魅力を訴求する内容とする。

<アジア向け>

大会についての認知度が低いため、「一部のトップアスリートのためではなく、誰もが参加でき、誰もが楽しめる」というWMGの楽しさを視覚化し、大

会認知度向上と参加促進を目的とした内容とする。

5 レガシーの創出について

関西大会をスポーツ愛好者のために留めることなく、大会を通じて次世代に様々な成果を遺すため、2016年10月にレガシー創出委員会(委員長 長ヶ原神戸大学大学院教授)を設置し、準備段階から能動的にレガシーの創出に取り組んでいる。

2017年4月に策定したレガシー基本構想を着実に進めるため、多くの個人や団体、企業等に大会を支援し参画いただくためのスキームづくりを検討するとともに、今後、実行委員会、スポーツ団体、大学等とも連携しレガシー創出にむけた取組を推進していく。

- ・大会開催による経済波及効果の算出(全国1,461億円)
- ・全国外大連合との連携協定の締結(再掲)
- ・3大会(RWC2019、東京2020、WMG2021)で連携した取組の推進
- ・産官学民一体となる生涯スポーツを推進する母体づくり(広域連合)との連携

別添資料：レガシー基本構想

6 参加の申し込みについて

リピーター参加者が多い大会特性を踏まえ、過去大会のエントリーシステムに備わる機能を踏襲しつつ、年齢、国籍などを問わず誰もが分かりやすいシステムを構築する。

また、大会開催時に出場登録受付(大会受付会場でのIDカード等の発行)、コールセンター等の機能とのスムーズな連携や選手間のコミュニケーション機能の充実が図れるシステムの構築を目指す。

<現状>

- ・エントリーシステム構築業者の決定(2017年10月)
- ・エントリーシステム設計・開発(2017年11月～)

<今後の予定>

- ・エントリー開始(2020年2月)

7 マーケティングについて

官民が一体となり創り上げてゆく大会とするため、2期に分けて民間からの協賛金の募集活動を展開している。

- ・第1期協賛期間
2014年4月1日～2017年12月31日(24社)
- ・第2期協賛期間
2018年1月1日～大会終了(現在セールス中)

8 総務関係について

(1) 公益財団法人化に向けた取組

税制面での優遇措置適用や、民間資金獲得に向けた対外的信頼感を担保する組織とするため、公益財団法人への移行を目指し事務作業を進めている。

(移行予定時期 2018年4月1日)

(2) 財源確保に向けた取組

- t o t o 助成獲得に向け、国等へ財政支援について要望中。
- 近畿宝くじ『ワールドマスターズゲームズ協賛くじ』の発売
 - ・ 売上金の一部を開催費に支援される予定
 - ・ 平成29年度発売期間：2018年1月4日(木)～16日(火)

(3) IMG Aとの調整関係

- IMG A事務局 競技会場視察
2017年6月7日(水)～6月16日(金)
- IMG A理事会 大会準備状況報告、競技会場視察
2017年10月9日(月・祝) リーガロイヤルホテル大阪

(4) 平成29年度主な会議

- 評 議 員 会 4回開催(2017年6/23、7/31、8/22、12/22)
- 理 事 会 5回開催(2017年6/2、7/20、8/10、11/21、2018年3月)
- 常任委員会 2回開催(2017年10/27、2018年2月)
- 幹 事 会 7回開催(4/11、5/30、8/2、9/12、10/19、12/20、2月)

(5) 総会の開催

2021年に向け、さらなる機運醸成を図り、また各界が一体となって大会を盛り上げていく契機とするため、第3回総会を開催した。

- 開 催 日 2017年11月21日
- 会 場 帝国ホテル大阪

<参考> 組織委員会の構成

(1) 設立経過等

- ・ 2013年11月、ワールドマスターズゲームズ(WMG)を関西で開催することについて、関西広域連合が大会主宰者(IMG A)と基本合意
- ・ これを受け、この大会の実施主体となる「一般財団法人 関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会」を2014年12月18日に設立

(2) 主な役員等

- 名誉会長 森 喜朗
- 名誉顧問 林 芳正、鈴木 大地、鈴木 俊一、麻生 太郎、伊藤 雅俊、竹田 恆和、大東 和美、鳥原 光憲、猪谷 千春、王 貞治
- 相談役 森 詳介
- 会 長 井戸 敏三、松本 正義
- 副 会 長 22名(開催府県政令市首長、経済団体、スポーツ団体の代表者等)

(3) 事務局(職員数 事務局長以下36名)

- ・ 事務総長 木下 博夫
- ・ 事務局長 大西 孝
- ・ 組 織 総務部、企画調整部、大会運営部、競技運営部、広報誘客部、マーケティング部
- ・ 職員数 事務局長以下36名